

## 『医学授幼鈔』について

木場由衣登

日本鍼灸研究会

『医学授幼鈔』は、饗庭東庵門人の雲庵による医学の入門書である。饗庭東庵は曲直瀬玄朔の門弟であり、その門下の味岡三伯は多くの門人を輩出している。門人雲庵が初学者にどのような内容を講習すべきとしたかを知る事は、劉張別派の医学を学ぶ上でも意義が大きい。

本書の刊本は複数存在するが、成立年は未詳である。伝本としては、東京大学、京都大学富士川文庫、研医会図書館、内藤記念くすり博物館等に所蔵され、影印本は存在しない。扉には「饗庭東庵先生門人雲庵術、『医学授幼鈔』、文会堂蔵版」とあり、「文会堂」所蔵する『切紙弁断』（後述）を『医学授幼鈔』と改題して刊行したのである。

構成は、伝本の多くが三冊本でそれぞれ題簽の書名下に一冊目は「乾」、二冊目は「坤」、三冊目は「切紙弁断」と記される。一丁から三十九丁を「乾」巻、四十丁から七十四丁を「坤」巻、「切紙弁断」巻は改めて丁数を「〇一」から「十八」に打ち直す。「乾」巻と「坤」巻の版心には「授幼鈔巻一」とあり、三冊目の版心には「切紙」とのみある。

成立年が不明であるが、著者雲庵は、饗庭東庵の門人であることから推測すると、雲庵自身の生没年は17世紀から18世紀中頃であり、本書の成立はこの頃であろうか。「授幼鈔」と題する書は、『医学授幼鈔』以外では、『詩法授幼鈔』（延宝7年）、『文法授幼鈔』（元禄8年）、『念仏往生授幼鈔』（成立不明）、『法華授幼鈔』（宝暦書籍目録に従る）が見られる。「文会堂」を名義として刊行される書は、囲碁に関する『古今白徒碁経類聚』（天明6年）、往来物の『一寸案文』（天保7年）、『教訓御代の恩』（天保14年）、『女一寸案文大全』（嘉永4年）、浮世草子の『武家堪忍記』（刊記不明）であり、時期は18世紀後半から19世紀中頃と遅く、また「文会堂」の医学書は『医学授幼鈔』以外に存在しない。

『医学授幼鈔』各巻の内容と引用書目は以下の様にある。

乾：切紙弁断、五藏六府（『靈枢』本神篇、本輪篇、『素問』気交变大論）、十二経脈（『靈枢』経脈篇、『素問』天元紀大論）、五運六氣（『素問』六元正紀大論、至真要大論）、骨度（『靈枢』骨度篇、『類経図翼』、類註）。

坤：六脈部位（『素問』、『難経』、『脈経』、『脈訣』）、筭法（『素問』六節蔵象論）、日月会等法（『切紙』筭法）、天月会之筭術、閏余之筭法、天日月会之筭法、日月会之筭法。

家伝切紙：五藏六府（『靈枢』、『素問』）、十二経脈（『靈枢』、『素問』）、五運六氣（『素問』）、骨度（『甲乙経』）、六脈部位（『素問』、『難経』、『脈経』、『脈訣』、『診家枢要』、『類経附翼』）、天月会之筭術、閏余之筭法、天日月会之筭法、日月会之筭法。

「乾」巻と「家伝切紙」巻は重複箇所が多く、「乾」巻冒頭は「医学授幼鈔巻之一、〇切紙弁断」という序文に相当する内容が置かれる。これによると「此ノ書ヲ名付ルハ、古来ヨリ世上ニ翫ブ。道三ノ切紙ト云ウ書アリ。ソレミ習ウテ作レリ。」とある。また「モトヨリ此書ハ内経ニ本ヅイテ自分ノ見解ヲ加ヘ医道ノ急務全体ノ本ヲ立テ、知ラスル也。故ニ本来連属シタル書ト思ウベカラズ、只本文ニ其綱領ヲ提ゲタルノミナリ。其意旨奥義ハ今弁断スル所ノ如シ。各ター章ツツヲ詳カニ心得ベシ」とあり、この書が曲直瀬道三の『切紙』を参考に編纂されたとある。本来の書名は『切紙弁断』であり、小曾戸洋氏も「続刊の予定があり未刊に終わったらしい」と推測する。道三由来の『切紙』（寛永二十年刊）と比較すると、内容はそれぞれ大きく異なる。道三の『切紙』は、病證の鑑別、薬方、胃気や神による予後の脈診を中心とし、『医学授幼鈔』が重視するのは、五藏論、十二経脈、骨度、六脈部位、そして運氣論とこれと関係する日月の算法である。成立時期が不明瞭な本書であるが、運氣論と経脈に対する視点は、この書の内容が饗庭東庵系医学である確証と云える。